資料番号	地域８

令和４年８月19日
課　名　地域政策局
　　平和推進ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ･ﾁｰﾑ
担当者　担当課長　松﨑
内　線　2365

国連事務総長と青少年との対話イベント等の開催結果について

１　要旨

８月６日の平和記念式典出席のため，広島を訪問されたグテーレス国連事務総長と，核兵器廃絶などの取組を行っている青少年との対話イベントを開催し，参加者及び聴講者が，核兵器のない平和で持続的な世界の実現について考える機会を発信した。

また，対話イベントに先立って，国連事務総長と知事が懇談を行い，本県の核兵器廃絶への取組への協力を要請した。

２　現状・背景

現在ニューヨークにおいて，ＮＰＴ運用検討会議が開催されているが，新型コロナ感染症のため当初より２年以上遅れての開催となっており，この間，ロシアのウクライナ侵略により，核兵器使用のリスクがかつてなく高まる中，今回の会議を成功させることは，喫緊の課題となっている。このため，国連をはじめとする国際社会へ，核兵器廃絶の働きかけを強化していく必要がある。

３　対話イベントの概要

(1)　実施主体

広島県，へいわ創造機構ひろしま（略称ＨＯＰｅ），国連軍縮部，国連広報センター，国連訓練調査研究所（ユニタール）

対話イベントの様子

(2)　実施日

令和４年８月６日（土）

(3)　予算（単県）

3,844 千円（ＨＯＰｅへの負担金）

(4)　場所

おりづるタワー（広島市中区大手町１丁目２−１）
※オンライン配信の併用（日英同時通訳）

(5)　聴講者（会場＋オンライン視聴）

1,277 名

(6)　実施内容

ア　参加者

アントニオ・グテーレス 国連事務総長
（モデレーター）倉光 静都香 #Leaders4Tomorrow（国連軍縮部 Youth4Disarmament）
中島 渉 学生団体 UNITE・2019 年度ユニタール青少年大使
（パネリスト）中村 涼香 KNOW NUKES TOKYO 共同代表・デザイナー
鈴木 健斗 一般社団法人自分ごと化プロジェクト代表理事
奥野 華子 Fridays For Future Hiroshima 設立者
浅野 英男 核兵器廃絶日本 NGO 連絡会事務局
メアリー・ポピオ NPO 法人 PCV 共同創業者
（閉会あいさつ）湯﨑 英彦 広島県知事

イ　会場聴講者

県内を中心とした中・高校生（HOPe ユース大使，ユニタール青少年大使等）
計 22 名

ウ　主な発言内容

○ モデレーター，パネリストの発言・提案

・　核兵器問題に関心が無い人も多いが，気候変動等，様々な問題とのつながりを発信することで，関心を持ってもらえるのではないか。
・　気候変動が起こると戦争が起こるリスクもある。現在，軍事費に使われているお金を気候変動対策に使うべきだ。
・　仕事として，核兵器廃絶を進めていく場がない。
・　政治家への働きかけはハードルが高い。国連から若者の声を届けて欲しい。
・　若者版国連を設立してはどうか。若者が，それぞれの国の代表として参加し，議論の透明化のため，生配信を行ってはどうか。
・　（核兵器禁止条約第１回締約国会議が開催された）ウィーンでは，イベントでおやつを食べながら，核兵器廃絶について話し合った。日本でもそのような（カジュアルな）イベントを実現したい。
・　エンターテイメントを活用し，核軍縮，気候変動の問題を，若い人にアピールすべき。国連では，SDGs をゲームや映画などに導入する試みが始まっている。
・　核軍縮を，皆が手を出しやすい，魅力的でかっこいいテーマにすべきである。

○ 国連事務総長の発言

・　核兵器が無ければ，ウクライナの戦争は，今のような危険な状況ではなかった。
・　若者の政治的な意思決定への参加が重要である。皆さんは，ネットワークを簡単に作ることができる。キャンペーンを立ち上げよう。

○ 知事の閉会あいさつ

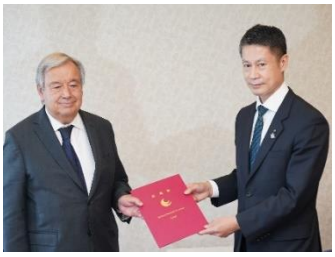
・　若い人が，様々な問題について，自分事として取り組んでいることは心強い。
・　皆さんは，先ほどのエンターテイメントの話のように，我々と違う感覚を持っている。その感覚を取り入れて大きなムーブメントにして欲しい。
・　県や国連など，多くの組織で若い人を求めている。その中で，皆さんが考えることを提案し，実行すると世の中が変わる。みんなで新しい未来を作ろう。

４　国連事務総長と知事との懇談

○　知事から，国連事務総長に，「ひろしまラウンドテーブル 2022」議長声明を手交した。
　国連事務総長からは，「ひろしまラウンドテーブル」の取組への感謝とともに，ロシアの核兵器使用の脅しを，核抑止への依存を高めるのではなく，核軍縮を進めていく機会として利用する必要があるとの発言があった。

○　また，知事から，核兵器廃絶に向けた３つのアプローチ（核抑止に替わる安全保障政策，核兵器使用の人道的影響，核兵器と持続可能性）を説明したところ，国連事務総長からは，核軍縮には，イノベーションが必要であり，これらの取組を大歓迎し，支援するとの発言があった。

○　さらに，国際市民社会グループ「グローバル・アライアンス」や，現在，設立準備を進めている政府レベルの「フレンズ会合」への支援をお願いしたところ，国連事務総長から，快諾を得ることができた。



「ひろしまラウンドテーブル 2022」
議長声明手交の様子